

\* 堀教会CS新聞「いずみのひろば」は家族の人と一緒に読んで下さい。

# いずみのひろば

2019年11月号  
日本基督教団堀教会  
No.492 教会学校



## 「ソロモンの知恵」

列王記上3章4～14節

これは「ソロモン」という人のお話です。

ソロモンのお父さんはもう皆さんもよく知っているダビデです。羊飼いだっただ少年ダビデはゴリアテを倒し、大人になると、とうとうイスラエルの王さまになりました。ダビデはいつも神様のことを忘れないで、誰よりも神様にお祈りをしました。ダビデの祈る姿は国の人々のお手本でした。ソロモンはいつもお父さんのような王様になりたいと思っていました。

何年もたち、ダビデもすっかり年を取り「次の王はソロモンだ」と告げて亡くなりました。

ソロモンはついに王様になりました。でも、若いソロモンは本当はとっても不安でいっぱいでした。「どうやってこの国を守っていけばいいのだろうか、どうしたらお父さんのようなすばらしい王様になれるだろうか…私はどうしたらいいのでしょうか。」ただただ神様にお祈りするだけでした。

ある日のことです。ソロモンが寝ていたら、夢の中に神様が現われ「何でもあなたが願うものを与えよう」とおっしゃいました。ソロモンは言いました。「私は年も若く、何をしたらよいか分かりません。どうか、困っている人たちの話を聞いて助けてあげる優しい心を私にください」神様はとても喜んで言われました。「あなたは、長生きしたいとか、お金が欲しいとかを望まなかった。だから私はあなたの願い通り、困っている人たちの話を聞き、助けてあげる優しい心を与えよう。それだけではなく、あなたが願わなかったものも与えよう。あなたは他のどの王様よりも豊かになる。」ソロモンは目が覚めると感謝の捧げ物をしました。

それからはたくさんの人たちがいろいろな相談をしにソロモンのところにやってきました。ソロモンは神様の心がわかるので、とても良い解決ができました。こうしてソロモンの知恵は世界中の人が知るようになったのです。

私たちも困ったときや悲しいときがありますね。そんな時は神様にお祈りをしましょう。

イエス様はいつも私たちを正しい方へ導いてくださいます。 (お話 加藤 伸子)